

フューチャー・バイオテック

足元の基準価額の下落について

平素より「フューチャー・バイオテック」（以下、当ファンド）をご愛顧賜り厚く御礼申し上げます。
当ファンドのバイオテクノロジー株式戦略^{*1}と医療機器関連株式戦略^{*2}の実質的な運用を担当する、カンドリアム・ベルギー・エス・エー（以下、カンドリアム）と、FIAM LLC（以下、フィデリティ）からの情報を基に、足元の運用状況、今後の見通しと運用方針等をご報告致します。

一部の成長銘柄や中小型銘柄への売り圧力により下落

- 2022年に入り、インフレ圧力の高まりやFRB（米連邦準備制度理事会）による金融引締め加速などに対して、株式市場の懸念が高まりました。また、ロシアによるウクライナ侵攻などが食料品やエネルギー価格の上昇を引き起こし、世界経済に悪影響を与えています。
- 当ファンドは、金利が上昇するなか、成長性が評価されてきた組入銘柄の一部が利益確定売りに押されたことなどにより、基準価額が下落しました。
- ただし、2022年入り後のパフォーマンスは、新型コロナウイルス関連銘柄の組入比率を引き下げ、新薬承認の期待度が高い銘柄の組入比率を引き上げたことが奏功し、バイオ株式を上回っています（5月18日現在）。

＜基準価額と世界株式等の推移（円ベース）＞
（2018年6月25日（設定日）～2022年5月18日、日次）



*1 カンドリアム・エクイティーズ・L・バイオテクノロジー（クラス、円建て）。

*2 フィデリティ世界医療機器関連株ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）。

（注1）世界株式はMSCI AC World指数、バイオ株式はNASDAQバイオテクノロジー指数、いずれも配当込み。両指数ともに、当ファンドのベンチマークおよび参考指数ではありません。

（注2）基準価額算出時の外貨建て資産の円換算は、主に、基準価額算出日前日（休日の場合はその直近の最終取引日）の価格とロンドン時間の為替レートを使用。そのため、世界株式およびバイオ株式の推移、騰落率はこの計算方法に沿って、前日の指数値とロンドン時間の為替レートから算出。

（注3）当ファンドは2022年5月18日時点で分配実績はありません。

（出所）Bloombergのデータを基に委託会社作成

※上記は過去の実績であり、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

※ファンド購入時には、購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時にも費用・税金などがかかる場合があります。くわしくは7ページをご覧ください。

2022年の年初以降の下落銘柄と見通しについて

- バイオテクノロジー株式戦略では、新型コロナウイルスのオミクロン型への懸念が後退し、売上期待が低下した新型コロナワクチン関連銘柄などが下落しました。
- 医療機器関連株式戦略では、金利上昇を受け、中長期の成長性が評価されてきた銘柄などが下落しました。
- 年初来の下落率（4月末まで）が大きかった銘柄のうち、モデルナ、ミラティ・セラピューティクス、血管関連機器メーカー、パルスオキシメーター企業の今後の見通しについては、以下および次ページの図表にまとめましたのでご参照ください。

<バイオテクノロジー株式戦略のパフォーマンス寄与度下位5銘柄および騰落率（米ドルベース）> （2021年12月31日～2022年4月29日）

順位	銘柄	騰落率 (%)	寄与度 (%)
1	ビオンテック	-46.2	-1.3
2	モデルナ	-47.1	-1.0
3	ギリアド・サイエンシズ	-17.2	-1.0
4	ミラティ・セラピューティクス	-57.9	-0.8
5	イルミナ	-22.0	-0.8

<年初来の下落率の大きかった銘柄の今後の見通し>

戦略	銘柄	今後の見通し
バイオテクノロジー株式戦略	モデルナ	<ul style="list-style-type: none"> ・オミクロン型への懸念が後退し、新型コロナワクチンの売上期待が低下し、株価が下落しました。一方、今後はインフルエンザ市場と同様に、ワクチンの追加接種による需要が期待されます。 ・メッセンジャーRNA技術を活用したインフルエンザ、RSウイルス、サイトメガロウイルス向けワクチンは臨床試験第3相にあり、今後の承認等が期待されます。
	ミラティ・セラピューティクス	<ul style="list-style-type: none"> ・年初来の同社の株価下落は、個別要因ではなく、株式市場の下落に伴ったものと考えています。 ・2022年下期には、精密腫瘍治療薬のFDA（米国食品医薬品局）承認が期待されます。 ・新薬は競合他社の製品と差別化を図れる可能性があり、市場シェアの拡大が期待されます。

(注1) 騰落率はトータルリターンベース。

(注2) バイオテクノロジー株式戦略の寄与度は各銘柄の米ドルベースのトータルリターンがカンドリアム・エクイティーズ・L・バイオテクノロジー（スクラス、円建て）の基準価額に与えた影響度の概算値であり、当ファンドの基準価額に与えた影響度ではありません。

(出所) Bloomberg、カンドリアムのデータを基に委託会社作成

※ 上記は過去の実績、当資料作成時点における見通しであり、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。見通しは、今後、予告なく変更される場合があります。

※ 上記は2022年4月末時点での保有銘柄であり、当該銘柄を当資料作成時点で保有あるいは今後も保有するとは限りません。また、当該銘柄を推奨するものではありません。

※医療機器関連株式戦略の実質的な運用会社であるFIAM LLCのルールにより、直近1か月の具体的な組入銘柄名は開示できません。

＜医療機器関連株式戦略のパフォーマンス寄与度下位5銘柄および騰落率（円ベース）＞
（2021年12月30日～2022年4月28日）

順位	銘柄	騰落率（%）	寄与度（%）
1	医療機器等の多角化企業	-13.4	-1.7
2	科学、医療関連メーカー	-12.0	-1.7
3	血管関連機器メーカー	-31.5	-1.2
4	パルスオキシメーター企業	-55.2	-1.1
5	薬剤開発ツール提供会社	-28.3	-1.0

＜年初来の下落率の大きかった銘柄の今後の見通し＞

戦略	銘柄	今後の見通し
医療機器 関連 株式戦略	血管関連 機器メーカー	<ul style="list-style-type: none"> 独自の血栓除去技術を持ち、脳梗塞の治療に画期的な機器を提供しています。 先進国では脳梗塞等の患者が増えています。今後も世界的な高齢化の進展により、同社の医療機器に対する需要の増加が期待されます。 近年では、心血管や末梢血管向け製品を拡充しており、今後の成長のけん引役として期待されます。
	パルスオキシ メーター企業	<ul style="list-style-type: none"> 患者が装着するだけで、より正確で誤判定が少ない血中酸素飽和度を測定する技術を持ちます。 血中のヘモグロビン濃度や呼吸パターンなどのモニタリングも可能としており、競争力を高めています。 モニタリング技術が搭載されたウェアラブルウォッチの発売が計画されており、今後の成長が期待されます。

（注1） 基準価額算出時の外貨建て資産の円換算のうち、医療機器関連株式戦略の円換算は基準価額算出日前日（休日の場合はその直近の最終取引日）の株価と基準価額算出日の為替レートを使用しています。そのため、同戦略の騰落率および寄与度は、この計算方法に沿って算出。

（注2） 騰落率はトータルリターンベース。

（注3） 医療機器関連株式戦略の寄与度は各銘柄の円換算ベースのトータルリターンがフィデリティ世界医療機器関連株マザーファンドの基準価額に与えた影響度の概算値であり、当ファンドの基準価額に与えた影響度ではありません。

（出所） Bloomberg、フィデリティのデータを基に委託会社作成

※上記は過去の実績、当資料作成時点における見通しであり、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。見通しは、今後、予告なく変更される場合があります。

※上記は2022年4月末時点での保有銘柄であり、当該銘柄を当資料作成時点で保有あるいは今後も保有するとは限りません。また、当該銘柄を推奨するものではありません。

今後の見通しと運用方針

<バイオテクノロジー株式戦略>

- インフレの昂進に伴う金利の上昇などにより、米国を中心に景気減速が予想されます。しかし、**病気は常に存在するため、バイオテクノロジーは景気依存度が低い業種**と考えられます。
- 足元では、**規制当局により承認された薬の製品群を持ち、キャッシュフローの創出力が高く、当面の資金調達のリスクとニーズが低い企業に注目**しています。また、**株価が下落した企業のM&Aの可能性にも注目**しています。

<医療機器関連株式戦略>

- **新型コロナウイルスの感染拡大で抑えられていた医療行為の再開もみられます**。加えて、**グローバルで進展する高齢化や、医療の高度化、デジタル化などの構造的かつ長期的な成長要因も期待され、今後も収益の拡大が見込まれます**。
- 引き続き、徹底した個別企業調査を行い、成長性や企業価値が市場から十分に評価されておらず、今後の株価上昇余力が見込まれる銘柄に選別投資していきます。相場環境を見極め、適切に対応してまいります。

基準価額と純資産総額の推移



(注1) 基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後。

(注2) 当ファンドは2022年5月18日現在において分配を行っておりません。

(出所) カンドリアム、フィデリティのデータを基に委託会社作成

※上記は過去の実績、当資料作成時点における見通しおよび運用方針であり、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。見通しおよび運用方針は、今後、予告なく変更される場合があります。

※ファンド購入時には、購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時にも費用・税金などがかかる場合があります。くわしくは7ページをご覧ください。

ファンドの特色

- 主として、世界のバイオテクノロジーおよび医療機器関連企業の株式に投資します。
 - ファンド・オブ・ファンズ方式により運用を行います。
 - * バイオテクノロジー関連企業とは
生命工学技術を応用して医薬品の開発を行うバイオテクノロジー企業の他、遺伝子検査や科学・実験機器関連の企業などを指します。創業期など初期のステージにある企業から安定的な成長を確立した企業の株式まで幅広く投資を行います。
 - * 医療機器関連企業とは
医療関連の機器、設備、技術等を提供する企業を指します。
 - 実質的な運用はカンドリアム・ベルギー・エス・エーとFIAM LLCの2社が行います。
 - バイオテクノロジー関連企業の株式への投資は、カンドリアム・ベルギー・エス・エーが運用する「カンドリアム・エクイティーズ・L・バイオテクノロジー（スクラス、円建て）」を通じて行います。
 - 医療機器関連企業の株式への投資は、FIAM LLCが実質的に運用する「フィデリティ世界医療機器関連株ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）」を通じて行います。
 - バイオテクノロジー関連企業の株式、医療機器関連企業の株式への投資割合は、概ね7：3を基本とします。
 - 実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
- ※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の**投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた**利益および損失は、すべて投資者に帰属**します。
- 投資信託は**預貯金と異なります**。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 株式市場リスク

内外の政治、経済、社会情勢等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況、これらに対する外部的評価の変化等によって変動し、ファンドの基準価額が下落する要因となります。特に、企業が倒産や大幅な業績悪化に陥った場合、当該企業の株式の価値が大きく下落し、基準価額が大きく下落する要因となります。

■ 信用リスク

ファンドが投資している有価証券や金融商品に債務不履行が発生あるいは懸念される場合に、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 為替変動リスク

外貨建資産への投資は、円建資産に投資する場合の通常のリスクのほか、為替変動による影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落（円高）する場合、円ベースでの評価額は下落することがあります。為替の変動（円高）は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ カントリーリスク

海外に投資を行う場合には、投資する有価証券の発行者に起因するリスクのほか、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化や混乱などによって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

■ 市場流動性リスク

ファンドの資金流入に伴い、有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、必要な取引ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

〔分配金に関する留意事項〕

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ファンドは、特定の業種・テーマに絞った銘柄選定を行いますので、市場全体の動きとファンドの基準価額の動きが大きく異なることがあります。また、市場環境、金利および経済・法制度・金融面の諸情勢が、特定の業種・テーマに対して著しい影響を及ぼすことがあります。当該業種・テーマに属する銘柄は、これらの情勢等に対して同様の反応を示すことがあります。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。

お申込みメモ

購入単位

当初購入の場合：1万円以上1円単位

追加購入の場合：1万円以上1円単位

投信自動積立の場合：1万円以上1千円単位

※当ファンドの保有残高がある場合または「投信自動積立」をすでに申込の場合を「追加購入」といいます。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額

購入代金

三井住友銀行の定める期日までにお支払いください。

換金単位

1円以上1円単位

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いします。

信託期間

無期限（2018年6月25日設定）

決算日

毎年6月25日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配金額を決定します。

ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

お申込不可日

以下のいずれかに当たる場合には、購入・換金のお申込みを受け付けません。

- ルクセンブルクの銀行の休業日
- ルクセンブルクの銀行の休業日の前営業日
- ニューヨークの銀行の休業日
- ニューヨークの取引所の休業日

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

○ 購入時手数料

購入時手数料（消費税込）は、購入代金（購入金額（購入価額〔1口当たり〕×購入口数）に購入時手数料（消費税込）を加算した額）に応じて、以下の手数料率を購入金額に乗じて得た額となります。

（購入代金）	（手数料率）
1億円未満	3.30%（税抜き 3.00%）
1億円以上5億円未満	1.65%（税抜き 1.50%）
5億円以上10億円未満	0.825%（税抜き 0.75%）
10億円以上	0.55%（税抜き 0.50%）

※「分配金自動再投資型」において、分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。

○ 信託財産留保額

ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

○ 運用管理費用（信託報酬）

ファンドの純資産総額に年1.232%（税抜き1.12%）の率を乗じた額です。

※投資対象とする投資信託の信託報酬等を含めた場合、年1.97874%（税抜き1.8434%）程度となります。ただし、投資対象とする投資信託の運用管理費用は、年間最低報酬額等が定められている場合があるため、純資産総額によっては、上記の料率を上回ることがあります。

○ その他の費用・手数料

以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただけます。

- 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
- 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
- 資産を外国で保管する場合の費用 等

※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※監査費用の料率等につきましては請求目論見書をご参照ください。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。

※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	ファンドの運用の指図等を行います。 三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 ホームページ：https://www.smd-am.co.jp コールセンター：0120-88-2976 [受付時間] 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）
受託会社	ファンドの財産の保管および管理等を行います。 三菱UFJ信託銀行株式会社
販売会社	ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。 株式会社三井住友銀行

投資信託に関する留意点

- 投資信託をご購入の際は、最新の「投資信託説明書（交付目論見書）」および一体となっている「目論見書補完書面」を必ずご覧ください。これらは三井住友銀行本支店等にご用意しています。
- 投資信託は、元本保証および利回り保証のいずれもありません。
- 投資信託は預金ではありません。
- 投資信託は預金保険の対象ではありません。預金保険については窓口までお問い合わせください。
- 三井住友銀行で取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 三井住友銀行は販売会社であり、投資信託の設定・運用は運用会社が行います。

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に関し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。

■ 投資信託説明書（交付目論見書）のご請求・お申込



株式会社三井住友銀行
登録金融機関 関東財務局長（登金）第54号
加入協会 / 日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

■ 資料の作成、設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号
加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

作成基準日：2022年5月18日